



演説用

持続可能な世界的成長への道—政策アジェンダ

クリスティーヌ・ラガルド

国際通貨基金 専務理事

ジョンズホプキンス大学ポール・H・ニッツェ高等国際関係大学院

ワシントン DC 2014年4月2日

おはようございます。学務の最高責任者であるプロボストを務めるリーバマン氏の温かいお言葉に感謝いたします。本日私を招待してくださったヴァリ・ナスル学部長にも御礼申し上げます。また、本日のセッションの司会を務められる我々の元同僚であり友人である、ジョン・リプスキー氏にこのような形でお会いできて光栄です。

世界でも有数の大学院であるここポール・H・ニッツェ高等国際関係大学院（SAIS）にご招待いただき光栄です。SAISの教授陣・学生はともに、その知性のみならず、キャンパスが3大陸に広がるなど国際社会へのコミットメントでも世界中にその名が知られています。今年のSAISのテーマは「新興市場」とは何이었습니다。新興市場国・地域が世界の経済成長の大部分を担っていることから、これは至極適切だと思います。

来週、IMFの新興市場国、先進国、そして低所得国が構成する188加盟国の財務大臣と中央銀行総裁がワシントンDCで開催される春季会合で一堂に会します。本日は、世界中から集まってくださった皆さんを前に、我々のグローバル政策アジェンダについてお話したいと思います。

優先課題は国際協調の強化

では、まず最重要課題からはじめましょう。世界がグレートリセッション（大規模景気後退局面）からの回復途上にあり、さらに地政学的な緊張が高まるなか、こういった課題に対処するために不可欠な国際協調を強化するためにはどうしたら良いでしょうか。

金融危機が発生した後、世界経済が安定化したのは確かです。しかし、回復は余りにも弱く安心することはできません。しかも、各国が協力し正しい政策措置を講じない限り、今後何年にもわたり、十分な雇用を生み出し未来に向け生活水準を改善できるような強固かつ持続可能な成長という標準にはるか及ばない、緩慢な成長が待ち受けている可能性があるのです。

これは回避不可能ではありません。アリストテレスはこう言いました。「私たちは、公正な行いによって、公正になり、温厚に振舞うことによって、温厚になり、勇敢な行動をすることによって、勇敢になる」

今こそ勇敢な振舞いが求められています。

2月にオーストラリアで会合を開いた G20 は、**各国**が適切な政策措置を選択することで、そして、**各国**が適切に協力することで、今後 5 年間で世界の GDP が 2% 以上拡大する可能性があるという点を確認しました。

これが実現するならば、世界経済は今日と全く異なるより望ましい軌道に乗ることになります。

シドニーでのこの会合で、**IMF** は各国の計画をモニタリングするとともに考えられる「波及」効果、つまり一国の政策措置が他の国や地域にどのように影響するかについて評価を行うよう要請を受けました。我々の加盟国は全世界に広がっており、我々には技術面での専門知識も国際的な経験もあります。これらを踏まえれば **IMF** は貢献するに十分な立場にあると考えています。

実は我々はこれを、第二次世界大戦後、アジアとラテンアメリカの金融危機、そしてグレートリセッションを含め 70 年間行ってきました。直近の例では、**IMF** はウクライナに対し支援を申し出ており、**IMF** の支援が他の支援を喚起することになるでしょう。

総じて我々の役割は十分に理解されています。結果、我々のリソースを強化しました、我々の加盟国のダイナミクスの変化をより適切に反映するための一連のガバナンス改革を、ほぼ全ての加盟国が承認しました。

この支援の例外が、残念ながら米国となっています。米国は我々の第 1 位の出資国であり創設メンバーでもあります。この改革の実現につながったであろう法案が議

会を通過しなかったのは先週のことでした。これは残念な結果ではありますが、これで終わりではありません。我々は諦めてはなりません。

米政権は、改革の早急な承認にコミットしていることを繰り返し述べています。他の加盟国も引き続きコミットしています。そして私自身もコミットしています。なぜか。これは、この改革が IMF のために、米国のために、そして世界のためになるからです。

ですから、国際協調は来週、様々な議題のなかでも重要な位置を占めることになるでしょう。他はどうでしょうか。

大きなトピックとして3点挙げられます。

- (i) *世界経済の現状：成長のエンジンの状態はどうか。*
- (ii) *今後の道にある短期的な障害。どのように進んでいくことができるか。*
- (iii) *中期的展望：ギアをどのように入れ、巡航速度、すなわちより強固かつ持続可能な成長、まで世界経済を持っていくか。*

ではそれぞれについてお話ししましょう。

1. 世界経済の現状

まず、世界経済について簡単にですが考えてみましょう。来週に我々の最新の見通しを発表しますので、ここでは大まかなトレンドについてお話ししようと思います。

世界経済の回復は全体として依然として余りにも遅く余りにも弱いですが、グレートリセッションという危機は脱しつつあります。2013年の世界経済の成長率は約3%でしたが、2014年及び2015年の成長率は、過去のトレンドをやはり下回ってはいますが若干ながらも改善すると我々は考えています。

先進国・地域の経済活動は、速度は異なるものの改善しています。過去5年間、2009年以降世界経済の成長の75%を占めるなど新興市場及び途上国・地域が回復の負担を背負ってきたので、これは良いニュースだと言えます。経済の眺望全体が大きく変化したなか、ようやく若干ながらも回復のバランスが取れてきたのです。

先進国・地域のなかでは、堅調な民需と短期的な財政のブレーキが緩和されたことに支えられ米国の成長が最も力強くなっています。それでも、Fedによる金融面の支援の段階的解消を引き続き慎重に管理し、堅牢な中期的財政計画を導入することが不可欠でしょう。

ユーロ圏では、相対的に中核国の成長は力強く南部では弱いなか、穏やかな回復が根付きつつあります。最近になり銀行同盟の実現に向けた心強い措置が採られました。IMFが以前から呼びかけていたものです。共通の財政のバックネットの設置が、予定されている銀行の資産価値の見直しとともに引き続き重要です。

世界第3位の経済国である日本では、「アベノミクス」の金融の「矢」により経済活動が拡大しています。成長が持続的であるためには、残りの政策の2本の「矢」である、構造改革と具体的な中期財政計画も総合的に放つ必要があります。

新興市場国・地域の活動は、鈍化傾向にありますが、2013年後半に若干上昇しました。これは、先進国・地域からの需要が増えたためです。外国での資金調達状況のタイト化が内需の足かせとなると考えられますが、今年はなかでもアジア新興国が6.5%超と世界で最も高い成長率が期待されるなど、引き続き輝ける場所となるでしょう。中国も、より持続可能なペースへと減速するものの、引き続き主な原動力となるでしょう。

多くの低所得国も明るい場所となっています。危機の間、年平均約5%の成長を遂げたサブサハラアフリカ（サハラ以南アフリカ）が、アジアに次いで世界で最もダイナミックな地域でした。この傾向は今後も続きますが、一部の国では債務が急速に膨れ上がり財政余地が侵食されているなど注視する必要があります。

移行期にあるアラブ諸国を見ると、社会・政治的に難しい局面にあり見通しは阻害されています。真に必要とされている諸改革を遂行しようとしているこれらの国々には、国際社会からの確固たる支援が必要です。

以上が世界経済を切り取ったものです。これをまとめてみると、

穏やかで脆弱な回復が進んでおり、よりピッチが速く持続可能な成長にギアをシフトする必要があります。

2. 短期的成長の障害を取り除く

ここで次のトピックに移ります。今お話したような成長に到達するまでの道のりで浮上してきた短期的問題は何かでしょうか。3点あります。

第一の障害は、*先進国・地域*にあります。ユーロ圏などで私が呼ぶところの「超低インフレ」リスクが表面化してきました。低インフレの時期が長引く可能性がありこれは、需要と産出高を抑制し、そして成長と雇用を抑制します。ユーロ圏では、ECBの物価安定目標達成の可能性を高めるために、非伝統的措置を含め金融の一層の緩和が必要です。日本銀行も、量的緩和政策を継続する必要があるでしょう。

第二の障害は、*新興市場国・地域*にあります。企業のレバレッジは拡大しており、米国の量的緩和の解消に関連し市場のボラティリティが高まるリスクがあります。また総じて海外の金融環境はそれほど好ましくないこともあります。最近見られた一連の市場のボラティリティは、相対的にファンダメンタルズが弱い、すなわち国内・対外の不均衡がより大きい国々が、より大きな影響を受ける可能性があることを示しています。同様に、これらの国々による力強い政策対応が、混乱に対する最善の防護策となる可能性が高いでしょう。

金融正常化という不安定な海を進んでいくためには、全ての国が互いに連携しあう協調的なアプローチが必要になるでしょう。これは、リスクと政策対応に関する理解を共有するということを意味します。また、政策の負の「波及効果」とそれに続く起点国への伝播（「スピルバック：戻り」）を封じ込めるために、中央銀行と金融規制当局の間での協力が必要であることを意味します。また、繰り返し申し上げているように、全ての中央銀行の間で明確なコミュニケーションを継続的に行うことが肝要です。

第三の障害は、*地政学的緊張の高まり*です。これは世界の経済見通しに影を落としかねません。ウクライナの状況は、適切に対処しなければ、より広く波及的な影響を及ぼすことになるかもしれません。地政学的に緊張しているところは他にもあります。これらの解決には、良い政策のみならず良い政治も必要です。これら二つが、世界経済をフル回転させるために不可欠なのです。

3. 中期的成長に向け巡航速度に入る

ここで第3のそして最後のトピックである、中期的にどのように巡航速度に入るか、に移りましょう。より広く共有することができる、質の高いより持続可能な成長にどのように達することができるでしょうか。

このまま緩慢な成長が続くならば、わずかな所得の伸びと失業と格差のわずかな改善と、そのコストは高いことは皆さんご存知のとおりです。実際、政策面で十分な志がなければ、世界は中期的に低成長の罠に陥るかもしれません。これを回避するにはどのようにしたら良いでしょうか。

第一に、危機の間から抱えている問題を解決する必要があります。

- *失業問題*—若者をはじめ依然として余りにも多くの人々が失業の状態にあります。
- *高い水準にある債務*—成長を守りながら財政健全化という課題に向き合わなければなりません。
- *金融をめぐる不確実性*—世界の金融システムをより健全な基盤にのせるために必要な改革を完遂しなければなりません。

それぞれで進展は見られるものの、解決に至った課題はありません。

既にお話した、経済、財政、金融政策は解決策のなかでも大きな位置を占めます。しかし、多くの国でこれらを支える政策を行う余地が限られてきていることから、政策のテコとしての構造改革の役割が増すことになるでしょう。

では実際に、これは何を意味するのでしょうか。よりターゲットを適切に絞った投資の拡大であり、更なる労働市場の改革であり、また製品市場とサービスの改革を意味します。

多くの国で公共投資は数年にわたり打撃を受けてきました。優先付けを十分に行った投資をさらに多く行うことで、潜在的な成長率と雇用が増すでしょう。ブラジル、インド、南アフリカ、そしてASEAN諸国全体で、インフラギャップの解消のためより多くの官民の投資が不可欠となっています。既存のインフラネットワークをアップグレードする投資も、ドイツや米国など一部先進国で必要です。

次に、潜在成長力を押し上げるには、*包摂的な労働市場改革*が非常に有効です。高齢化が進む国々では、参加が不十分なグループの参加を拡大することで、そのダイナミックさを維持することができるでしょう。例えば韓国では、女性や高齢者の参加を拡大する措置を採ることで、潜在成長力を大幅に押し上げ、高齢化社会の影響を相殺する以上の効果が期待できるでしょう。最近のIMFの調査によると、多くの国において、女性の労働力参加を増やすことが、成長への強力な刺激となることができるとわかっています。

若者の失業率やインフォーマルセクターの従事率が高い国々では、労働市場改革が失われた世代の出現を防ぐうえで重要です。メキシコでは、フォーマルセクターの雇用面での障害を取り除く改革により、年間約40万の新しい雇用を作ることできるとの推計もあります。

最後に、*製品市場及びサービスの改革*が、既得権益の破壊、競争力の強化、雇用と成長の大きな可能性の解放に有益です。これは日本やドイツといった先進国のみならず、中国のような新興市場国・地域にもあてはまります。

これはどうしてでしょうか。サービス部門を支えるイノベーションと生産性が、現代の経済の牽引力だからです。テクノロジー、コミュニケーション、そして金融について考えてみてください。そしてこれらは、今度は効果的で責任あるルールに則った制度や組織に立脚しています。

だからこそ、能力構築のための取り組みが極めて重要になってくるのです。だからこそ、IMFの活動のなかで能力構築が、188加盟国の約90%、ギリシャ、グルジア、ギニアと多様な国々を対象とするなど、もっとも幅広く展開しているのです。

例えば、私が昨年訪れたミャンマーでは、同国が改革に取り組むなかIMFはマクロ経済管理の主要分野を強化するために大きな努力を重ねています。そしてIMFを通し、国際社会は同国が世界に門戸を広げることができるよう連携して支援しているのです。

こうしたこと全てを考えると、私が最初にお話した、IMFの役割と協力の重要性に話が戻っていくわけです。

最後に

ではここで最後になります。

多くの点で現在世界は、およそ 100 年間で最大の金融危機から立ち上がるという、重要な岐路に立っています。回復は根付きつつあるものの、あまりにも緩慢であり回復の道にはいくつかの障害が待ち構えています。大胆な政策措置を採ることで、こうした障害を克服し、世界経済をよりピッチの速い持続可能な成長という次のレベルへシフトさせることができるのです。

本日お話しいくつかのこうした措置については、来週我々の加盟国がより深く協議を行います。しかし何よりも、国際協調の強化と多国間主義へのコミットメントを新たにする、というこの政策措置ひとつが、重要であることは明らかです。

21 世紀というこの相互に結びついた世界では、他国と無関係な国は存在しません。国の繁栄と世界の繁栄はリンクしており、これまでになく協働に依存しています。そして我々 IMF はこの世界の協調に不可欠なのです。

ヴィクトル・ユーゴーは言いました。「粘り強さこそあらゆる勝利の秘訣である」と。

世界経済は今危機を脱しつつあります。我々は粘り強くともに力を合わせこの旅の終着点に到着しようではありませんか。

ご清聴ありがとうございました。